

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2025年 第48週（11月24日～11月30日）

今週のコメント
～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 減少するも警報レベル超え続く」

第48週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,271例であり、前週比8.1%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎、水痘・伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.08、1.34、0.98、0.63、0.41である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比2%減の569例で、中河内5.26、大阪市南部4.71、南河内4.20、大阪市西部4.10、三島3.18であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は21%減の247例で、南河内2.33、中河内1.74、堺市・大阪市南部1.53である。

RSウイルス感染症は増減なしの181例で、大阪市北部2.00、北河内1.61、南河内1.60であった。

流行性角結膜炎は15%減の33例で、泉州1.33、中河内1.20、南河内・大阪市西部1.00である。

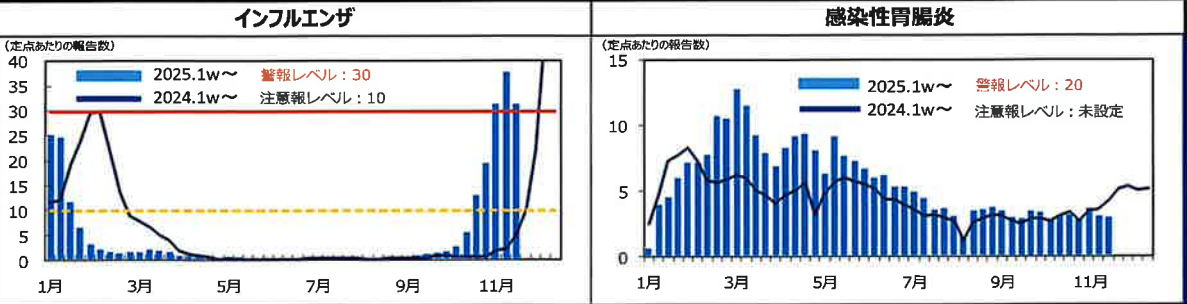
水痘は23%増の76例で、三島1.00、豊能0.82、大阪市南部0.53であった。

伝染性紅斑は10%減の75例で、南河内1.07、中河内0.68、泉州0.65であった。

インフルエンザは18%減の9,121例で、定点あたり報告数は31.45である。大阪市北部44.85、南河内40.91、北河内40.45、中河内37.21、大阪市西部35.53である。2025年第36週以降のインフルエンザ入院サーベイランスの累計報告数は、10歳未満が53%を占めていた。大阪府ではAH3、B型の順で検出されている。

新型コロナウイルス感染症は17%減の242例で、定点あたり報告数は0.83である。南河内1.43、中河内1.03、大阪市東部0.95、堺市0.92、大阪市南部0.88であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は、13%減の16,808例で、定点あたり報告数は57.96である。大阪市西部91.93、南河内80.78、北河内71.97、大阪市北部70.10、中河内61.55であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第48週11月24日～11月30日）

第48週の順位	第47週の順位	感染症	2025年第48週の定点あたり報告数	前週比増減	2024年第48週の定点あたり報告数	2025年第48週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.08	2%減	4.29	1歳_12%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.34	21%減	1.58	10-14歳_16%
3	3	RSウイルス感染症	0.98	増減なし	0.62	1歳_33%
4	4	流行性角結膜炎	0.63	15%減	0.37	20歳以上_64%
5	7	水痘	0.41	23%増	0.18	10-14歳_36%
5	5	伝染性紅斑	0.41	10%減	0.45	6歳_20%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	31.45	18%減	4.91	20歳以上_19%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.83	17%減	1.46	80歳以上_21%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	57.96	13%減	-	1-4歳_29%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection：ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

[各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。](#)

～麻しん～ ワクチンで予防可能な感染症です。

全数把握感染症

麻しん

麻しん（はしか）は麻しんウイルスによって引き起こされる発熱を伴う発しん性疾患で、感染すると高熱と結膜炎などの症状と、全身性の発しんが出現する。潜伏期間は1-2週間である。強い感染力（一人の患者が12～18人に感染伝播）のため、麻しん発生時には早期の診断と感染拡大に対する措置が重要となる。2015年3月、日本は麻しん排除国に認定されている。しかし、現在でもアジア、アフリカやヨーロッパ諸国で麻しんが流行している。症状（発熱、せき、鼻水、眼球結膜の充血、発しん等）があり、1）1か月以内に麻しん患者と接触していた場合、2）麻しん流行国（主にアジア及びアフリカ諸国）に最近の旅行歴がある場合、麻しんを疑い、感染拡大を防止するため、医療機関を早期に受診する。受診に際し、医療機関に事前連絡し、麻しん疑いを伝え、指示に従うことが重要である。麻しんはワクチン（1歳以上で2回）で予防可能な感染症であり、接種の徹底が予防や感染拡大の防止に重要である。

麻しん [国立健康危機管理研究機構 (旧 国立感染症研究所)]

麻しん情報（大阪府感染症情報センター）

年別累積報告数（大阪府）

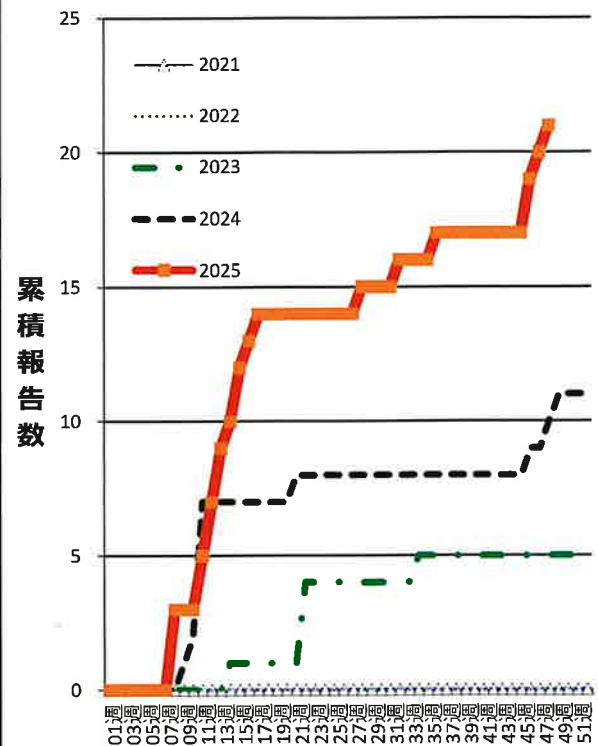


表2. 大阪府全数報告数（2025年 第48週11月24日～11月30日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報 告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	報 告 数	府 内 累 積
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3		1	1					1		220
4 類感染症	レジオネラ症 (肺炎型)	2							1	1		137
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1									93
	後天性免疫不全症候群	1					1					88
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	1	1	1					1		284
	梅毒	7		1			2			4		1,556
	百日咳	13	1	1	2	3	2	1	2	1		3,209
	麻疹	1				1						21
結核 (2025年10月分)	結核 新登録患者数：80名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 964名、内 肺・喀痰塗抹陽性 341名)											

(2025年12月2日 集計分)